

本の読み方

こんにちは、京都大学文学部1回生の西山香帆です。大学生活が始まってはや半年、いまだにこの大学は対面授業がほとんどなくオンライン授業が続いております。家を出るのは体育の授業でのサイクリング程度、課題に追われてせわしない日々を送っています。しかし、こんな生活にもすっかり慣れてしまい、少しずつ自分の趣味や読書にあてる時間が増えてきました。ありがたいことに勉強熱心な方が周りに多く、學術書をすすめてくれることもあります。同じ一回生でも、もう学びたい分野について自分で本を読んでいる方が非常に多くインスパイアされるのと、少しの焦燥に駆られている今日この頃です。

さて恥ずかしい話ですが、私は読書が苦手な人で本を最後まで読み切ることがなかなか無く何度も自信をなくしてきました。先ほど触れた知人に勧められた學術書も難しくて読みにくく、またもや心が折れかけていたのですが、その時に文学研究科の院生の先輩から聞いたお話が興味深かったのでぜひ皆様と共有したいです。その方は非常に本を読まれる方で、思い切って「どうやったら本が読めるのですか。」という質問をしたところ「みんなで読めばいい。」という答えをいただきました。「本は難しい、難しいものを一人で読み進めていくのはしんどいので、人を誘って複数人で勉強会のようにすればいい。期日を決めてみんなで少しずつ読み進めるようにすれば一人で読むより強制的に本に向かうことになるし、何より分からなかったところも他人と話し合いながら理解できたりする。それに誤読も少ない。」とのこと。読書とは一人でやるものという考えを持っていたので衝撃でした。この考えにきっとこれから何度も救われるのだろうと率直に思いました。さっそく友人を誘って一冊本を読んでみようと思います。何かするときに「しなければならない」と思い焦るよりも、「してみたい」という気持ちだと続きやすいのだと思います。